

取組み事例1: 昼読書の実施

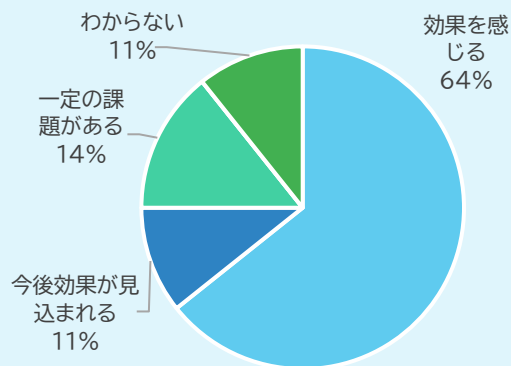
桜丘小学校

取組概要

昼休み、掃除の時間のあとに10分間の読書時間(花の子タイム)を実施。児童が落ち着いて午後の授業に取り組めることを目的とする。

| | | | | | | | | | | |
|---------------|---------------|----------------------------|---------------|-----------------|-----------------|------------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|
| 8:15~ 8:25 | 8:25~ 8:30 | 8:30~ 8:45 | 8:50~ 9:35 | 11:35~ 12:20 | 12:20~ 13:05 | 13:05~ 13:40 | 13:40~ 14:25 | 14:25~ 14:30 | 14:30~ 15:15 | 15:15~ 15:25 |
| 登校 | 朝の会 | 全校朝会・学 年朝会・モ ジュール・集会 | 一時間目 | 四時間目 | 給食 | 給食・清掃・ 花の子タイム | 五時間目 | 5分休み | 六時間目 | 帰り |

教員アンケート回答結果(7月実施)



「効果を感じる」と回答した人の自由意見

- 5時間目が落ち着いてスムーズに始められる。
- 一息つき、暑い時期は涼んでから授業ができる。
- 教員と児童が落ち着く時間を作れている。
- 児童に読書習慣が付き午後の授業にも落ち着いて取り組めている。
- 集中力が高まっていると感じる。
- 静かな時間があることで午後の授業に落ち着いて臨める。
- 掃除後のチャイムがなくなったことがよかった。
- 忙しい動きから静かな時間になることで児童がリラックスしている。

「今後効果が見込まれる」と回答した人の自由意見

- 昼読書が2年目となり、静かに読める子が増えてきたように感じる。高学年は読書離れが目立ってくるので、昼読書は良い。

「一定の課題がある」と回答した人の自由意見

- 読書が苦手な児童は手持ち無沙汰になり、困っている様子もある。
- 掃除が時間内に終わらないことがあるため、時間の確保が課題。
- 昼読書の終了後、本を返しに行ったりそこから授業の準備をし始めるため、5時間目のスタートがあわただしい。

R6年度

| | | |
|-------------|-------------|-------------|
| 13:05~13:15 | 13:15~13:30 | 13:30~13:40 |
| 昼休み | 清掃 | 花の子タイム |

R7年度

| | | |
|-------------|--------------------------|-------------|
| 13:05~13:15 | 13:15~13:30 (予鈴13:27) | 13:30~13:40 |
| 昼休み | 清掃 | 花の子タイム |
| ロング昼休み(輪番) | | |

実施にあたって

【昨年度からの変更点】

- 昨年度(実施初年度)は、読書開始と同時にチャイムを鳴らしていたが、今年度からは掃除終了(花の子タイム開始)3分前にチャイムを鳴らすよう変更。開始前に準備の時間を設けて、昼読書を落ち着いて始められるよう改善した。

取組み事例2-1:経営支援部のリニューアル

取組概要

従来は、校長・副校長・主幹教諭で構成されていた経営支援部に、学校主事、事務、副校長補佐、スクール・サポート・スタッフを構成員として追加した。学校全体の課題を、各構成員が自分ごととしてとらえることで、学校全体で働き方改革を進める意識を醸成し、アイデアを実行に移すハードルの低下と、実施までのスピード感を高めることを目的としている。顔を突き合わせることで、職員室・事務室・主事室の相互の関係性構築にも効果がある。

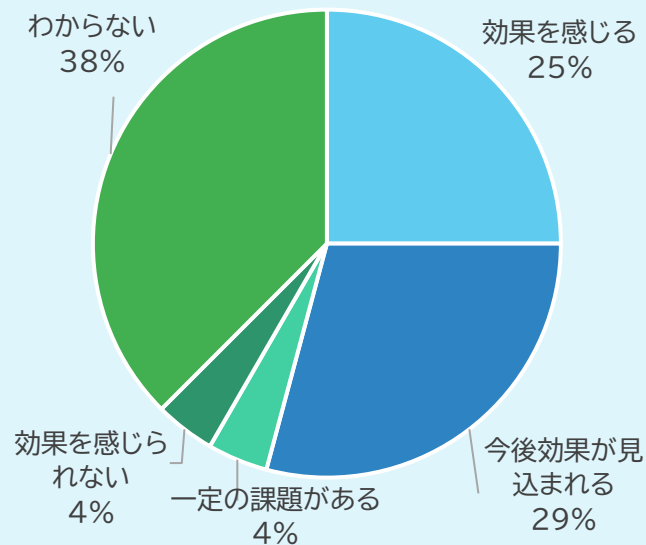
教員アンケート回答結果(7月実施)

「効果を感じる」と回答した人の自由意見

- 学校の課題について改善できそうなことが出てきている。
- 普段の意識が変わってきた。
- 校内職員(事務、主事、スクール・サポート・スタッフ等)との連携。教職員の意識の変容。業務改善。
- 人事庶務システムの入力等を事務室が手厚くフォローしてくれることになりありがたい。

「今後効果が見込まれる」と回答した人の自由意見

- 働き方改革の取組みだけでなく、教員などが一人で仕事を抱え込まず働きやすい職場になると思う。
- 定期的に事務職員、学校主事、SSSなどと話し合う時間を持つことで、お互いの仕事理解ができ、協力しやすくなる。
- 会議を重ねているので、今後変わっていきそうな気がする。
- 実態に合った、効果的な手立てを打つことが期待される。子どもたちを中心に考えた、着実な改善。



経営支援部で行った改善例は
次ページに記載

実施にあたって

【注意点】

- 主事室、事務室、職員室がお互いに信頼関係を築けるかが重要。
- 仕組みを整理するだけでなく、人も重要な要素。
- 経営支援部の機能を、教員の負担軽減という点にフォーカスさせた。

【反省点】

- 学級担任、専科教員代表だけでなく、特別支援学級の教員もメンバーに入れると学校全体で考える意識がより促進される。

実際の会議の様子
(給食時間を利用し、休憩は振り替えてとっている。)



取組み事例2-2: 経営支援部のリニューアル

世田谷小学校

経営支援部で行った改善例

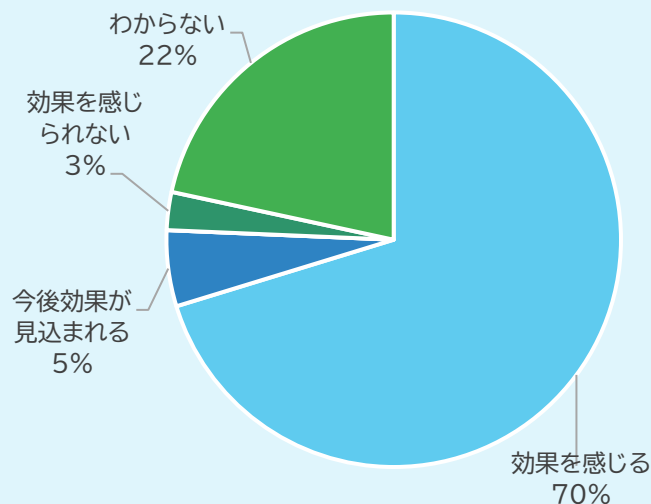
| 目的 | 具体的な内容 |
|--------------|--|
| 直接的な教員の負担軽減 | <ul style="list-style-type: none"> ・ スクール・サポート・スタッフに給食事務を依頼した。 ・ 学校のホームページの更新の担当に、スクール・サポート・スタッフ、副校長補佐を加えて役割分担を明確化した。 |
| 教員の中での業務の平準化 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 給食時間をローテーション制とした。(担任+副担任(専科)でローテーション) ・ 毎月、時間外在校時間を、教科担任実施学年(4, 5, 6年)と未実施学年(1, 2, 3年)、専科、特別支援学級、管理職の5つのグループごとに見える化し、互いの業務負担について関心をもてるようにした。 |
| 時短を目指した軽減 | <ul style="list-style-type: none"> ・ デジタルデータや倉庫、職員室を整理し探し物の時間を減らした。 ・ 学校全体のお知らせや、学年の発注、お便りなどの時期と内容を一覧にした。 ・ 施設利用の見える化を進め、施設開放業務をスムーズに行えるようにした。 ・ 各教員の在校時間管理を週ごとに行い、各教員が自分自身のタイムマネジメントができやすくした。 |
| その他 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 上記の取組みにより、職員室、事務室、主事室がお互い受け身の姿勢から、提案型の仕事に変化していった。 ・ 職員へアンケートを実施して、職員の気持ちやニーズに寄り添う試みをしている。 ・ 働き方研修会を受け、やれるものから着手中。(宿題の出し方、行事の在り方、時程の見直しを具体的に検討中) |

取組み事例3:行事の朝練の廃止

取組概要

今年度より、運動会(5月)と学芸発表会(10月)の朝練を廃止。勤務時間前の教員の負担を軽減する。

教員アンケート回答結果(7月実施)



「効果を感じる」と回答した人の自由意見

- ・ 生徒、教員の疲労度が違う。(軽くなった)
- ・ 生徒、教員にとってちょうどいい練習時間になる。
- ・ 出勤前の活動がなくなった。
- ・ 家庭の事情で朝の勤務時間外の出勤ができない場合の後ろめたさがなくなった。
- ・ 限られた時間の中でいかに工夫して練習するか、生徒たちが一生懸命考えていたことに効果があった。
- ・ 基本の勤務時間を守ることが徹底される姿勢がいいと思う。
- ・ 運動が苦手な生徒や怪我などの対応など、身体への負担を考えるといい。
- ・ 怪我、体調不良者が減る。
- ・ 朝練習に遅刻する生徒が出て、学級の雰囲気が悪くなったり、そのことを教員が指導するという負担が減る。
- ・ 限られた時間内で成果を出せる方法を見つけるほうが大事。
- ・ 勤務時間内に行事をおさめていく意識は必要。
- ・ 勤務時間外の活動がなくなり、他の業務や出勤時間に余裕ができる。

実施にあたって

- ・ 行事の質を確保するには、生徒の意識を高くもたせ、練習の質を上げるための教員の働きかけが必要になる。
- ・ 今後入学する生徒は朝練がないことが通常となるので、効率的な練習日程を組む指導をしていく必要がある。

5月(運動会実施月)の始業前の時間外在校等時間は一人あたり平均で-2h

「今後効果が見込まれる」と回答した人の自由意見

- ・ 行事担当への負担が少なくなっていると感じている。

(参考)始業前の時間外在校等時間比較(一人あたり平均)

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 |
|-----------|-----|------|-----|-----|
| R6年度平均(h) | 8.9 | 10.9 | 9.7 | 9.5 |
| R7年度平均(h) | 9.1 | 8.9 | 8.8 | 7.3 |

参考事例: 学校支援コーディネーターによる地域人材の活用

桜丘小学校

取組概要

学校支援コーディネーターが中心となり、地域人材に協力してもらいながら、学校や地域の特色を活かす取組みを実施している。
桜丘小学校では、学校支援コーディネーターが調整役となり、校内のビオトープ(おたまが池)の再整備をした。整備作業には、地域の住民だけでなく、栽培委員会の児童、隣接する桜丘中学校の生徒も協力した。
整備前はビオトープがあるかもわからない状態だったが、整備後はイトトンボの生息が観察できるほどになり、生活科の活動や理科の授業での観察などに活用されている。



整備後のおたまが池



実施にあたって

- これまでも栽培委員会の活動の一環として、年に数回おたまが池周辺の環境整備をしてきたが、池そのものには手が回らなかった。
- 学校支援コーディネーターを中心に、栽培委員会の児童、学び舎の中学校の園芸部の生徒、委託業務主事、地域の方が時間を分け合い分担して作業することで、おたまが池を再生することができた。
- 2学期には地域の方からメダカを分けてもらい、さらに水辺の環境を充実させる予定である。
- 再整備されたおたまが池に昆虫や小鳥が集まるばかりでなく、子どもたちも興味津々で様子を眺めている。